



慶應義塾大学ビジネス・スクール

ある診療所の不可解な出来事 (A)

5

この物語は、九州地方の山間へき地のある診療所に着任した若手医師 藤原亮助が経験した出来事である。研修医時代に患者中心の医療、地域医療の大切さを学び、医師としての高い志と正義感に満ちあふれて着任したが、今、その診療所に藤原医師の姿はない。

10

「やっぱり、あの地域への入り方がまずかったのかな？」

山間へき地の診療所から北関東の中規模病院に移って一年近く。藤原の頭からあの診療所の出来事が消えることはない。診察の合間やふとした瞬間に、あの時のことを振り返ってしまう。

15

山間へき地の診療所

藤原医師が診療所に所長として派遣されたのは、2010年30歳の時だった。40年前に村公設の診療所として開設され、人口1,400人、高齢化率40%を超える村で唯一の医療機関だった。県内でも観光に力を入れた地域として有名だったが、山深いところにあり、一番近いコンビニまで車で1時間半、病院まで2時間もかかった。村の人から観光客まで、この地域でまず診察してもらえるのはこの診療所だけで、村の人たちからの信頼は厚かった。

20

この診療所には、以前、木村医師が勤務していた。十数年間、地域医療を支えていたが、定年退職を迎えたことで、藤原医師が派遣されることになった。「木村先生に命を救ってもらった」と言う村の人も多く、木村はこの村に慕われ、また木村もこの村の自然を好んでいた。

25

本ケースは医師 藤原亮助氏（仮名）が自身の経験を元に作成したケースを脚色したものである。地域や登場人物・団体は架空のものである。クラス討議での使用を目的としたものであり、地域や組織における特定の管理上の適切あるいは不適切を例示しようとするものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 高木晴夫、鶴ヶ谷典俊（2021年10月作成）